



April 25-26, 2018
KFC Hall, Ryogoku, Tokyo, Japan
<http://www.m-e-f.info/>

April 23, 2018

2018 Vol.3 MEF Newsletter– MEF Develop Hot Discussion among Successful Players in the Global MEMS World

MEMS の世界で成功した多くの人たちが展開する

熱い議論の場

MEF2018 実行委員会 副委員長 /

SPP テクノロジーズ株式会社 エグゼクティブシニア

ドバイザー 神永 晋



It is important not to just develop new sensor technologies but to create a new business model by establishing a system to utilize the information obtained by sensors. With the value of information obtained by sensors, you can make a big change in society by forming collaborative partnership among sensor manufacturers, system builders, and users. Technology innovation resolves global issues such as aging society, medical and healthcare, aging infrastructure, food production, environmental conservation, disaster prevention /mitigation, clean energy, etc. The most important key factor is to eliminate walls enhancing collaboration between industry, academia and government, collaboration between large enterprises and small and medium enterprises and venture companies, cooperation among companies, cooperation across borders, etc.

In this forum, we expect to discuss both aspects of the trends of innovative technologies and of the mechanisms necessary for implementing new technologies in society. For that purpose, the grand finale annual panel discussion looks back to the past ten years of MEMS industries, and explore the next ten years driven by MEMS.

●MEMS の世界で成功した多くの人たちが展開する熱い議論の場 : MEMS Engineer Forum

2009年にスタートし、本年10周年を迎える MEMS Engineer Forum の開催が目前に迫りました。MEMS に関心を持つ研究者、技術者が誰でも参加できるように参加費無料として企画され、国の内外から馳せ参じる、MEMS の世界で成功した多くの人たちの興味深い講演を聴くとともに、熱い議論が繰り広げられるフォーラムとなりました。ここ数年、参加者が急増し、豊富な講師陣のレベルの高さと併せて、MEMS 分野で質量ともに世界最大のフォーラムのひとつとの評価を受け、参加者にとって、多くの情報と興奮を共有する場となっています。

特に、昨今、注目を浴びている IoT (Internet of Things) の急速な発展の推進力としての MEMS が、今後益々重要な役割を果たすことが期待されています。この数10年の間に、多くの MEMS 関連技術が開発

<https://www.m-e-f.info/mef-newsletter/>で過去の MEF Newsletter もご覧いただけます



April 25-26, 2018
KFC Hall, Ryogoku, Tokyo, Japan
<http://www.m-e-f.info/>

され、実用に供されて来ました。また、今後さらに広範なニーズに応える新しい技術も開発されて行くことは間違いありません。ここで重要な点は、そのような技術が、社会の要請に応じて人々の幸せな生活の実現に貢献するためには、社会への実装を目的とするシステムを構築し、新しいビジネスモデルを作り上げることにあります。部品や要素技術に優れると言われる日本が、そこに満足してとどまることなく、その強みをベースとしたシステムを構築し、世に役立つビジネスモデルを創出して、新しい価値を生み出すことが求められています。

昨年来、IoT の世界で多くの実施例が見られるようになりましたが、それは、その要となるセンサが、MEMS によって超小型で高機能のものが開発されたおかげと言えます。情報を得るために不可欠な新しいセンサの開発を加速することで、必要とされる半導体、パッケージング、システムの開発が進み、新しいアプリケーション、さらには新たなビジネスモデルが創出され、新しい価値が生み出されます。

●センサの新技術開発だけでなく 社会実装のための必要な仕組み作りを議論

一方、単なる新しいセンサの開発ではなく、センサによって得られる情報を活用するためのシステムを構築し、新しいビジネスモデルを創出することが重要になります。センサによって得られる情報の価値を軸として、センサメーカー、システム構築者、ユーザーの協業の場を構築することによって、社会を大きく変えて行くことができます。高齢社会、医療・ヘルスケア、老朽インフラ、食料生産、環境保全、防災・減災、クリーンエネルギー等の地球規模課題を解決し、未来に向けて、人々が安全で安心な生活を享受することを可能とするために、技術が貢献できる道が大きく広がって行きます。そのためには、産学官連携、大企業と中小企業・ベンチャー企業の連携、企業間の連携、さらには、国境を越えた連携、等々、あらゆる形態の協業によって、壁を除去し、タテ割りを排除することが、重要な鍵を握ることになります。

本フォーラムでは、革新的技術の動向を知るとともに、社会への実装のために必要な技術、仕組み等についての議論も期待されています。そのために、参加者ひとりひとりがどのように社会へ貢献できるか、さらにどのような人財が求められるか考える場となろうかと思えます。2日目最後に予定されている、恒例のパネル・ディスカッションでは、MEMS の過去10年を振り返るとともに、今後の10年をどのように見るか、そして、MEMS によってもたらされるイノベーションが、新しい社会の構築にどのように貢献できるかについて議論が展開されることでしょう。参加者の皆さんとともに、MEMS の益々の発展を担うことを目指して、未来に向かう道筋を見つけていきたいと思います。